

浜松市内小学校

竹村さん

今年の夏も暑い。熱中症警戒アラートが何度も発表され、長い夏休みなのに暑すぎて日中外で遊ぶことも親に反対されることがある。

ぼくがこの作文を書くとき知って母が今朝の新聞の記事を教えてください。

「世界の平均気温の上昇幅が二〇四〇年までに一・五度を超える可能性が高く、今までの分析より十年早まった。」

という内容だった。それはよく聞く地球温暖化が原因なのだろう。二十年間で一・五度ということは、ぼくがおじいちゃんになるころにはいったいどうなってしまうのだろう。百年も千年も先の話ではなく、ぼくがまだ生きている時代の話だ。ただ暑さにたえるだけではなく、農業に支障が出たり、台風が巨大化して大きな被害にあうかもしれない。

ぼくはまだ子供だ。そんな子供のぼくにも何かできることがあるか考えてみた。発電のために化石燃料を燃やすと二酸化炭素が発生し、地球温暖化につながるといわれているので、まずは節電や省エネが必要だ。

「また電気つけっぱなし。」

「あ、ごめん。」

うちでよくある会話だ。ぼくは昼間暗くもないのに階段や洗面所の電気をつけてしまうくせがある。そして、明るさがあまり変わらないので消し忘れてしまう。これは今すぐにでもやめようとおもう。

次にエアコンの使用だ。この暑さでエアコンを使用しないのは辛すぎる。でも、せん風機を使えば二十八度でも快適に過ごすことができる。

テレビも、ぼくはひまになると特に見たい番組がなくても何となくテレビをつけてしまう。それを気をつけることはすくなくでもできそうだ。

他にも、シャワーを流しっぱなしにしないこと、買い物に行く時は必ずエコバッグを持っていくなど小学生のぼくにもできることはたくさんある。

ぼく一人が頑張ってもきつと何も変わらない。でも、日本全国の小学生が少し気をつけたらどうだろう。全世界の小学生が気をつけたらどうだろう。そんなぼく達が大人になったらもっとたくさんことができるようになるはずだ。そうすれば、きつとぼくがおじいちゃんになった世界は何かが変わっているはずだ。

学校でSDGsについて調べる授業があった。地球温暖化だけでなく、他にも多くの問題があることを学んだ。

「ほく一人くらいやらなくていいから変わらない」のではなく、一人一人が自分自身の近い将来の問題として考えることが大切だと思う。